

聖路加看護学会

ニュースレター

第19回聖路加看護学会学術大会を終えて 第19回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告 第19回聖路加看護学会学術大会報告
司会・座長・参加者からのメッセージ 第20回聖路加看護学会学術大会のご案内
理事長挨拶 第19回聖路加看護学会総会の焦点 お知らせ 編集後記

●第19回聖路加看護学会学術大会を終えて

第19回学術大会 大会長 森田 夏実 (東京工科大学医療保健学部看護学科)

9月20日(土)197名のご参加をいただき、学術大会を無事終了することができました。ご参加いただいた皆様をはじめ、企画の段階からご支援いただいた方々に、心より感謝申し上げます。

第19回学術大会では、テーマを「経験」を語る、聴く、わかちあう」として、学術大会のプログラムや運営の理念の基盤として企画して参りました。大会長に決まってからテーマを決定する間には少し時間が必要でしたが、私がこれまでの看護で大切にしていることを中心に据えたいと考え、企画委員会を招集してからいろいろ練った結果、「経験」をキーワードに据えることになりました。「経験」とはとても深く、そして広い意味も持っているのです。プログラムとして焦点化するのが難しかったです。ひとつひとつ実現の可能性を探り、演者の交渉をしていきました。演者の方々がテーマの意味を深くご理解いただいたことで、今回のプログラムが成立したと考えています。

人間は「いま、ここで」の経験の積み重ねがそれぞれの人生として編み上げられると考えると、患者の経験、看護師の経験、学生の経験、そして参加者の経験(もちろん企画・運営に当たる者の経験も)を包括するような学術大会になる事を目指しました。

演題発表の方々から、聴衆とのQ&Aや励ましのご意見をいただき、今後の学術活動への励みになったとの感想を聞きました。参加者からは、「テーマが凝縮した企画だった」「看護の特性が言語化されて共感・共通理解に努力されている」「大会への配慮が行き届いて気持ちのよい学会だった」という感想が寄せられておりました。私達の企画意図を感じていただくことができたのではないかと思います、うれしく感じました。

4名の名誉会員の方々にはお元気でご来場いただきました。学会を支えてこられた先輩会員からの励ましはとても心強く、学術大会の継続の1コマを担わせていただいたことは感慨ひとしおです。

私個人として、大会長という責任ある役割を与えてくださった聖路加看護学会の皆様へ感謝致します。皆様との協力によって学術大会をやり遂げた達成感、これからの私の人生に少しですがキラッと光る自信を付加してくれた「経験」となりました。

この学術大会での経験をこれからの看護教育、看護実践など、参加の皆様的人生に活かすことができましたら、開催の意義もさらに深くなると思います。結果的に任意団体としての聖路加看護学会の最後の学術大会になりましたが、法人化後もますます発展していくことをお祈りしています。

●第19回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告

第19回学術大会の企画委員会メンバーは、講演集の末尾にも記しましたが、委員の所属がばらばらでした。また本年4月に大会長の勤務先の移動により引越えをしなければならず、運営面で少し遅れが生じたりしました。それに伴い事務局も移転し、封筒の再印刷、振込先の登録変更など、事務局の作業量が増してしまいました。事務局は大会長と庶務をサポートしてくれた大熊智子さんとフル回転で乗り切りました(大熊さんに大きな感謝です)。しかし、Eメールのおかげで、企画委員と密に連携をとりながら効率的に運営をすることができました。それぞれの企画委員が分担業務を非常にスマートにこなすとともに、必要時は企画委員会で熱く議論をかわしてきました。そのプロセスは、私達にとって創造のひとつときを楽しむものとなりました。

企画委員会の自負としては、「大会長“色”」を重視して、テーマに沿った各プログラムと演題発表のタイトルを示すことができ、学術大会に一貫性をうむ原動力になったのではないかと考えています。

参加者からのアンケート結果から、おおそ8~9割の方がどのプログラムも良かった、と評価されていました。また、学術大会を知ったのは、他の学会会場や研修会でのパンフレット、知人・友人からの紹介、雑誌の広告欄という方が半数もいらっしゃいました。学術大会を広く宣伝していく活動も今後さらに重要だと感じました。

今回は、企業展示、講演集への広告、寄付など、看護学の発展を支えてくださる企業の方々からの多額のサポートをいただきました。事務局としても少しゆったりとした姿勢で運営に取り組むことができました。当日の運営を支えてくださった聖路加国際大学、実行委員、ボランティアの皆様、そして発表者ならびに講演者の皆様へ感謝申し上げます。



第19回 聖路加看護学会学術大会報告

【日 時】2014年9月20日(土) 8:45~
【会 場】聖路加国際大学 本館
【大会長】森田 夏実(東京工科大学医療保健学部看護学科)
【テーマ】「“経験”を語る、聴く、わかちあう」

総 会 8:45~9:30
アリス C. セントジョン メモリアル
ホール

大会長講演 9:30~10:00
アリス C. セントジョン メモリアル
ホール
「“経験”と“気持ち”」
講演者 森田 夏実
(東京工科大学医療保健学部看護学科)



大会長講演

10:00~11:20 鼎 談
アリス C. セントジョン メモリアル
ホール
「看護者として“経験”に向きあう」
宮子あずさ
(公益財団法人井之頭病院)
西村 ユミ
(首都大学東京健康福祉学部看護学科)
司 会 佐藤 紀子
(東京女子医科大学看護学部)



鼎談

12:20~14:20 口演発表
【第1群:看護を扱う(すくう)】
12:20~13:20 3 F301教室

座長 田代順子(聖路加国際大学看護学部)

- 日本の近代看護教育・看護活動の萌芽期にみるドイツ細菌学の潮流
○佐藤祐子¹⁾、葛西好美²⁾
¹⁾ 横浜国立大学大学院、²⁾ あすなろ訪問看護リハビリステーション毛利
- 抗加齢ドック受診者における適切な指導とその課題~継続支援達成のための一考察~
○竹田麻美、尾形珠恵、山田千積、岸本憲明、西崎泰弘
東海大学医学部附属東京病院
- 食物アレルギーのマネジメントにおいて養育者が経験した出来事に関する検討
○下川伸子
東邦大学医療センター大橋病院
- 子どもの世代間交流行動に影響する要因の検討
○糸井和佳¹⁾、亀井智子²⁾
¹⁾ 帝京科学大学、²⁾ 聖路加国際大学

【第2群:臨床を編む】13:20~14:20 3 F301教室

座長 佐藤紀子(東京女子医科大学看護学部)

- 虚血性心疾患と診断され冠動脈インターベンション治療を受けた男性の病気の体験
○窪田美由紀
東邦大学
- 喉頭摘出者の退院1年後の生活のしづらさの実態一面接調査から一
○小竹久美子¹⁾、岩永和代²⁾、山田雅子³⁾、羽場香織¹⁾、鈴鴨よしみ⁴⁾、高橋綾⁵⁾、江口優子⁶⁾
¹⁾ 順天堂大学、²⁾ 福岡大学、³⁾ 聖路加国際大学大学院、⁴⁾ 東北大学大学院、⁵⁾ 埼玉県立大学、⁶⁾ 聖路加国際大学大学院博士課程
- 手術室看護師が術後訪問で経験したこと
○安田理恵¹⁾、池口佳子²⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、²⁾ 聖路加国際大学

- 4 専門看護師による看護外来に関するインタビュー調査
○田村富美子、宇都宮明美、梅田恵、山田雅子
聖路加看護学会高度実践看護検討委員会



口演発表での意見交換

【第3群:人を育む】
12:20~13:20 3 F302教室

座長 吉田千文(聖路加国際大学看護学部)

- 看護系大学における臨床看護実践能力の育成に関する看護系教員への調査
○松谷美和子¹⁾、佐居由美¹⁾、平林優子²⁾、三浦友理子¹⁾、井部俊子¹⁾、宇都宮明美¹⁾、倉岡有美子¹⁾、林智子³⁾、中村めぐみ⁴⁾、岩崎寿賀子⁴⁾、西野理英⁴⁾、寺田麻子⁴⁾、高屋尚子⁵⁾
¹⁾ 聖路加国際大学、²⁾ 信州大学医学部保健学科看護学専攻、³⁾ 三重大看護学部、⁴⁾ 聖路加国際病院、⁵⁾ 神戸市立医療センター中央市民病院
- 総合実習チームチャレンジを応用した新卒看護師への夜勤勤務の早期導入の評価
○岩崎寿賀子、田中万里子
聖路加国際病院
- 「臨床的知識」の発展につながる新人教育プログラムの実践報告~“めざせ!達人ナース”プログラムの先輩看護師への効果~
○浅田美和、高井今日子
聖路加国際病院
- 訪問看護ステーションにおける教育研修課の取り組みと効果
○鈴木志律江
鶴見区医師会 在宅部門

【第4群:病いを生きる】13:20~14:05 3 F302教室

座長 山田雅子(聖路加国際大学看護学部)

- 訪問導入時期における、終末期がん患者・家族のニーズに関する研究
○正野健太郎
聖路加国際大学大学院
- 乳がん患者がインターネット上のナラティブを視聴することにおける「文章」と「映像」による印象の違い
○瀬戸山陽子¹⁾、射場典子²⁾
¹⁾ 東京工科大学医学部看護学科看護情報学、²⁾ DIPEx-Japan
- 患者家族当事者が闘病記に体験を表出する特徴とその活用一文獻レビューとプロジェクト実践に基づく国内外の動向一
○和田恵美子
京都学園大学

シンポジウム 14:30~16:00

アリス C. セントジョン メモリアルホール

「映像による“経験”のわかちあい」

シンポジスト:

射場 典子(認定NPO健康と病いの語りディベックス・ジャパン)

花岡 隆夫(潰瘍性大腸炎患者会 かながわコロソ)

武田 祐子(慶應義塾大学看護医療学部)

司会:井部 俊子(聖路加国際大学看護学部)

教育講演 16:00~16:50

アリス C. セントジョン メモリアル
ホール

「エビデンスとナラティブ:これからの医療と看護を考える」

講演者 中山 健夫

(京都大学大学院医学研究

科社会健康医学系専攻健康情報学

分野)

司会 森田 夏実(東京工科大学医療保健学部看護学科)



大会長とシンポジスト、講演者の皆さん

閉会 16:50

アリス C. セントジョン メモリアルホール

司会・座長・参加者からのメッセージ

●〈大会長講演〉では、はじめに演者である大会長のプロフィールが紹介され、その趣味の多さと多様さに会場は圧倒された。聴衆は人生を謳歌することを忘れないあり方に一気にひきつけられていった。日本女子大卒業後に看護学校に入學され大学病院で看護師としての第一歩を踏み、程なくカウンセリングへの興味から米国の臨床心理学者カール・ロジャースに出会う。研修を通して「自分を信じる」ことを経験され、自分らしく生きるために「自己概念」と「経験」とが一致した「十分機能している人間」という状態をめざすこと、その重要性を学ばれている。そこから、「気持ち」に関心を抱かれ、博士課程では“経験”と“気持ち”を探究する道を歩まれている。“気持ち”の探究は森田さんのポートフォリオに示されるように多様に展開するが、自分を、そして他者を、感情や思いや意見などのすべてを含めた全体的な存在として大切にしたいという一貫したメッセージを快く放っている。あたかも多様な人生の楽しみを育ててきた森田さんの存在そのもののように。ありのままの森田さんが輝いている魅力あふれる講演でありました。（司会 松谷美和子）



プログラムの始まりを待つ会場

- 〈第1群：看護を扱う〉では、看護を扱うセッションらしく、多様な視点から看護課題を取り上げるといった看護を扱う（探索）研究が4題発表されました。第1題は大正9年創設の初期の聖路加国際属高等看護婦学校の教育を担われた金村栄三蔵先生や行政官であった後藤新平の経歴から当時の看護教育を扱うとする研究、第2題は抗加齢ドック受診者への指導と新たな継続支援の指針を扱う研究、第3題は食物アレルギーを持つ小児の養育者の支援を養育者の経験からのニーズを扱う研究、第4題は子どもの世代間交流プログラムの中で子どもの行動に影響を及ぼす要因を扱う研究でした。本セッションでは、聖路加での看護教育の根拠を教育にかかわった方々の業績から扱う取組も、21世紀の健康課題である抗加齢の継続支援、食物アレルギーを持つ小児を養育者の支援を扱う、あるいは世代間交流の参加している小児の影響を扱うと、一般の学会では同じセッションでは発表されない研究が発表され、そのセッションの参加者も、座長も、専門外のテーマを聞き、新たな看護を扱う作業をさせられたセッションであったと思います。このセッションを可能にできることが聖路加看護学会のユニークな点で、今後も看護を扱い発展できる可能性を改めて感じたセッションでした。（座長 田代順子）
- 〈第2群：臨床を編む〉は4演題が発表予定であったが、1席目のかたが発表には来られなかったため、3名の方の発表でいずれも看護師の実践に寄与するための研究発表であった。「喉頭摘出者の退院1年後の生活のしづらさの実態」では、退院後の生活のしづらさが具体的に提示され、術前の意思決定の重要性への示唆があった。「手術室看護師が術前訪問で

経験したこと」は、学部生の卒業論文であったこと、そして質疑応答の中で手術室の人員配置への提言がなされたことが印象的であった。「専門看護師による看護外来に関するインタビュー調査」では、複雑な問題を抱える患者に対し専門看護師が行っている実践が報告され、今後は実践の評価が必要であるという課題が示された。「臨床を編む」というテーマにふさわしく、外来や手術室の看護実践、退院後の患者の生活に目を向けた取り組みの発表であり、臨床の日常が描き出されたセッションであった。座長をさせたいいただいたことに感謝いたします。

（座長 佐藤紀子）

- 〈第4群：病いを生きる〉では、学会デビューの正野会員が、東北地方の在宅療養者の現状を、訪問看護師の目を通して生き生きと伝えてくれました。瀬戸山会員、和田会員は、患者が自分の体験を語るということの意味と、それら語られた体験を受け止める側の様子について視点を変えて報告されました。いずれも「治す」一辺倒の医療から「支える」医療へシフトしていくためには、当事者である患者がどのような体験をしているのかということが重要であり、それを理解せずに看護を組み立てるわけにはいかないのだと感じさせてくれました。「患者一人一人の体験がエビデンスなのだ」と、次のシンポジウムでのコメントにつながった思いがいたしました。（座長 山田雅子）

- 何年かぶりに貴学会に参加させて頂きました。看護系の学会にはいろいろと参加してきましたが、臨床と教育の場がまだまだ乖離しているなど感じていたなかで、貴学会の内容に思わずホッとするほど臨床とつながった研究発表を聞くことができてとても嬉しかったです。来年も来よう！と思いました。（一般参加者、東京50代、Y・H）



参加者同士の情報交換

- 学会出席は「自己看護」の一つとして出席させていただいております。今回の特徴として「看護学 or 看護科学」領域の拡大、次第に確立していく過程の様なものを散見出来た様に感じました。これは、本学会に継続出席している成果と実感しております（自己評価）。有難うございました。健康長寿を目指して努力中。（聖路加の大学ならではの学会の特性!!! 歴史。）（一般参加者、南九州 S22.3卒、S・I）
- 午後からの参加となってしまいました。学びのあるものでした。有難うございます。（一般参加者、神奈川、40代）
- エビデンスが主流の中、難しいテーマに挑んでくださってありがとうございました。最後の中山先生のご講義で、勉強になり頭がすっきりした感じがしました。これから勉強していくべきことがわかりました。（一般参加者、大阪、40代、E・W）

第20回聖路加看護学会学術大会のご案内（第1報）

開催日：2015年9月19日（土）
 大会長：松谷美和子（聖路加国際大学）
 会場：聖路加国際大学
 テーマ：「教育と実践のハーモニー」
 学術大会事務局：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
 第20回聖路加看護学会学術大会事務局

日本は少子高齢化がさらに進展し、人々の生涯に亘る重要な局面において親身な仕事を行う看護職者の存在価値が、社会から認識される時代になりました。それを実証するように看護系大学の数は234校を数えるまでになりました。看護系大学には、良い資質を育み、基盤となる知識や技術を身につけ、自ら成長していくエネルギーをもった卒業生の育成、そして、社会に貢献できる専門実践者、研究者・教育者の育成という使命があります。一方、急速な大学数の増加による教員や実習場の不足という課題があります。大学教員に求められる学位や研究業績を満たすにも、実践を積むにも時間がかかりますが、両方を十分に満たす教員は不足しています。また、

満たせば完了というものでもありません。

翻って、臨床現場では、患者や家族の意思を尊重し、安全に細心の注意を払い、日進月歩の医療技術を駆使した治療がなされています。看護職には、患者や家族が最良の生活状況を創りだせるよう援助する役割があります。その役割を果たすための広範囲に亘る実践的な能力の獲得と資質の涵養は、どのようになされているのでしょうか。そこにはどのような課題があり、それらを解決するにはどうしたらよいのでしょうか。

第20回聖路加看護学会学術大会では、“実習”を中心テーマに据え、実習における実践者と教育者との協働などにより、実習を充実させる工夫へのヒントが得られる機会となるシンポジウムを計画しています。シンポジストには、実習担当教員、実習受け入れ機関の看護職者を迎える予定です。また、大会では、大学と病院との一体化を果たし、一層の実習の充実をめざす聖路加国際大学の取り組みをさまざまな角度から紹介する予定です。

口演による研究発表の企画も組んでいます。教育と実践のハーモニーは果たしてどのような音色になりましょうや。皆様のご参加をお待ちしています。

理事長挨拶

聖路加看護学会 理事長 山田 雅子

今年は、各地で台風やこれまでにない大雨等が発生し、天候の変化に適応して生きるための方法を考えざるを得ない日常になったと実感します。今回の総会は、任意団体として最後の総会となり、来年度からは一般社団法人聖路加看護学会として新たに出発することをお決めいただきました。

ポイントだけこの紙面でお伝えしておきます。一つには、総会は定時評議員会と学会総会の二つになります。これまで会則の変更、決算などは、学術大会当日の総会にて審議していただきましたが、法人化後は定時評議員会で行うこととなります。定時評議員会の開催は、年度終了後3か月以内となりますので、4月から6月までの間に1回行います。評議員の任期は4年となります。法人設立当初の評議員及び役員は、現在の評議員及び役員が1年間（正確には1年経過した後の定時評議委員会の日まで）その任を遂行してよいと総会で承認していただきました。学会運営が円滑に進むことを優先した結果です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

聖路加看護学会は19年もの間、看護実践を育むため、研究者と実践者が切磋琢磨しあう場を作り続けてきました。それは創始者の熱い思いと、それを受け継ごうとした会員皆それぞれの力で続いてきたのだと思います。法人化した後は、聖路加看護学会が看護実践の向上と看護学の発展をもって、人々のためになるよう更なる努力をすることと、それを継続することの責任を尚一層強く意識しなければなりません。看護が大きく変わらなければならない今の時期に、襟を正して社会に果たす役割を、改めて一緒に考えてまいりましょう。

今回承認された定款を、ホームページからご覧いただきたくお願ひ申し上げます。

お知らせ

★学術交流委員会

2014年度の学術交流会は、「看護職が行う起業と看護の可能性」と題して開催いたしました。この自由集会には50名の参加者がございました。福田裕子氏（まちなすステーション八千代管理者）の実際のエピソードな話にお話、時間があつという間でした。資金、届出、場所などスタート時のこと、事業運営上の困難、事業の発展と夢の実現のための投資など、これから起業したい方やすでに起業している方にとってネットワークを広げる機会にもなりました。

第19回学術大会においては、「聖路加看護学会看護実践科学助成基金」による2013年度の助成対象者2名の方の発表がありました。2014年度は助成対象研究3件を採択しました。2015年度も総額20万円の助成予算が承認されました。応募要領はHPをご覧ください。（委員長：松谷美和子）

★庶務

学会事務局の場所が学内で移動になりました。新しい場所は2号館1階かなびの一角です。いよいよ2015年4月からの一般社団法人への移行に向けて支度を整えていく予定です。随時、ホームページに進捗状況を掲載する予定ですが、お気軽にお問い合わせやご意見を slnr@slcn.ac.jp にお寄せください。また勤務先（所属）、住所、メールアドレスなどの変更がありましたら、学会事務局までご連絡ください。聖路加看護学会員は聖路加国際大学図書館を使用できます。ぜひ、周囲の皆様への入会をお勧めください。（担当理事：森 明子・佐居由美）

編集後記

本号では第19回学術大会および学会総会についてお伝えしました。学術大会ではテーマに沿った様々な試みがありました。中でも「鼎談」では、舞台上の長室の応接セットが持ち込まれる演出がされました。このような語り合う雰囲気作りが、三人の演者の化学反応を呼び起こしていました。さて、ニュースレター委員会では、新たに奥裕美理事を迎え、パワーアップしました。どうぞ、よろしくお願ひいたします。（ニュースレター委員会）

●発行：2014年12月25日 ●編集：松本直子 飯岡由紀子 小山真理子 奥裕美 ●印刷：(株)イーフォー
●連絡先：聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内
電話 03-3543-6391 (代表) FAX 03-5565-1626 (代表) HPアドレス <http://slnr.umin.jp/>

■第19回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 森 明子、佐居由美（庶務担当）

～定款ができました～

第19回聖路加看護学会総会は、2014年9月20日（土）に出席者21名、委任状提出者299名により開会されました。本年の総会では、2013年度の収支決算報告および2015年度の事業計画と予算について審議されました。

本年度の総会の焦点は、聖路加看護学会の一般社団法人化に伴う定款および現評議員ならびに理事・監事の任期延長についてでした。作年度の総会で2015年度からの一般社団法人化への移行が承認され、司法書士事務所の方々のお力添えを得て、定款の作成を進めてまいりました。理事長をはじめ役員らは内容と言を繰り返し確認し、検討・修正を重ね、精魂を込めて成文化した定款が今年度承認されました。聖路加看護学会ホームページに掲載しておりますので、あらためてご一読をお願いします。また、今年度は役員改選のための選挙が行われ、次期評議員・理事・監事が決定したとの報告がなされました。しかしながら、法人化への移行に伴い、社会通念上、移行期の事業を担い、安定化を見届けるのは現役員の責務であるのご指摘を受け、急遽審議した結果、任期を1年延長し、2016年度より新役員にご就任いただくことを総会に提案し承認されました。

これまでどおり、ニュースレターの発行、オンライン投稿・査読システムによる学会誌の発行、学術大会・学術交流集会の開催、看護実践科学基金の助成、高度実践看護の開発などの継続事業も合わせて承認されています。また、次期第21回学術大会長には、吉田俊子氏（宮城大学）が推薦され承認されています。2015年4月1日から一般社団法人となりましたら、聖路加看護学会の事業の安定化とこれまで以上の発展を共に支えていただきますよう、会員の皆様には心よりお願ひ申し上げます。

★学会誌編集委員会

会員の皆様の研究成果がどこかに眠ったままになっていませんか？ 研究成果を世に公開し、多様な人の目に触れるようにすることはとても意義のあることです。最近、本誌を読んだという一般の方から、論文を引用したいという問い合わせを受け、様々な人に本誌が読まれていることを実感しました。質の高い論文を掲載していかなければならないと、改めて身を引き締めています。投稿論文を作成される際には「聖路加看護学会誌オンライン投稿システム」にアップされている「論文作成フォーマット」をダウンロードしてご利用ください。次の投稿期限は2015年5月末日です。編集委員会は会員の皆様からのたくさんの投稿をお待ちしています。（委員長：亀井智子）

★会計

2013年度の会員費納入率は77%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度の会費納入がお済みでない方は下記口座にお振込みください。振込先：郵便振替口座：00100-8-670371、加入者名：聖路加看護学会 来季会計年度は2015年4月1日から2016年3月31日で、会計年度に変更はありません。（担当理事：井部俊子・佐藤直子）

★高度実践看護検討委員会

看護系学会等社会保険連合の研究助成を受け、専門看護師による看護外来の実態調査を行いました。多様な分野の専門看護師が、通常の外来では対応できない複雑な課題を抱える患者に対して実践している状況が見えてきました。それぞれの施設で独自に発達している機能が多くみられるため、今後施設横断的に知を共有すること、また、評価の視点を持って関わることを通して、質の高い看護外来の実践が根付くような政策を考えてまいりたいと思います。（委員長：山田雅子）